

第4章 試験検査

試験検査業務は、行政検査と依頼検査に大別される。

行政検査としては、健康危機管理に伴う検査、食品保健に係る検査、水質検査、臨床検査などを行った。

依頼検査としては、食品検査、水質検査、糞便検査などを行った。

第1節 行政検査

1 健康危機管理

(感染症、食中毒等関連検査)

感染症や食中毒など健康危機の発生に対し、保健所は、迅速に原因を究明し、健康被害の拡大を防止するための初動検査を実施している。

健康被害の発生に伴い、検便や食品等358検体について関係項目の検査を実施した(表1)。

このうち健康被害の原因と判明した病原微生物について、血清型、毒素型を示す(表2)。

表1 健康被害発生に伴う検査

検体の種類		便・吐物	食品	ふきとり	浴槽水	菌株	計
検体数		247	38	46	27		358
検査項目	赤痢菌	38	-	-	-		38
	腸・パラチフス菌	2	-	-	-		2
	腸管出血性大腸菌	164	1	9	14		188
	ノロウイルス(IC法)	26	-	-	-		26
	ノロウイルス(PCR等)	50	-	-	-		50
	レジオネラ菌	-	-	-	13		13
	大腸菌群(定量)	-	-	-	5		5
	サルモネラ属菌	50	35	37	-		122
	病原大腸菌	4	12	-	-		16
	腸炎ピブリオ	43	32	25	-		100
黄色ブドウ球菌	49	34	32	-		115	

検査項目	カンピロバクター	25	1	5	-	31
	セレウス菌	45	34	32	-	111
	ウエルシュ菌	10	5	3	-	18
	大腸菌等	1	57	69	-	127

ノロウイルス(PCR等)は保健環境センターで実施した。

表2 健康被害の原因と判明した病原微生物

発生月	検体	原因病原微生物
4	便	腸管出血性大腸菌 O26:H11 (VT1)
		ノロウイルス G
6	便	ノロウイルス G
7	便	カンピロバクター ジェジュニ
		腸管出血性大腸菌 O26:H- (VT1)
8	便	腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1,2)
		腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT2)
		腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1,2)
		腸管出血性大腸菌 O5:H- (VT1,2)
9	便	腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT2)
		腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1,2)
		腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1,2)
10	便	腸管出血性大腸菌 O111:H- (VT1,2)
12	便	ノロウイルス G
1	便	腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1,2)
2	便	ノロウイルス G
3	便	ノロウイルス G
		ノロウイルス G
		ノロウイルス G

2 食品保健

(1) 食品衛生一斉監視指導

食品製造事業者等に対して実施した夏期一斉監視指導及び年末一斉監視指導において、収去された食品 83 検体について、細菌検査を実施した(表 3)。

表 3 食品衛生一斉監視指導による食品検査

区 分		成分規格	県指導基準	合計
検 体 数		34(1)	49(2)	83(3)
検 査 項 目	生菌数	10	43(1)	53(1)
	大腸菌群(定性)	17(1)	26(1)	43(2)
	大腸菌(定性)	5	21	26
	サルモネラ属菌	6	43	49
	黄色ブドウ球菌	6	43	49
	腸炎ビフリア(定性)	2	4	6
	腸炎ビフリア(定量)	12	2	14

()数字は不適数

(2) 食鳥処理場一斉点検

管内の食鳥処理場 1 施設について、食鳥処理の工程ごとに 19 検体の細菌検査を実施した(表 4)。

表 4 食鳥処理場一斉点検

区 分		拭取り	冷却水	合計
検 体 数		17(4)	2	19(4)
検 査 項 目	生菌数	17	2	19
	大腸菌群(定量)	17	2	19
	サルモネラ	17	2	19
	カビ・黴菌	17(4)	2	19(4)

()数字は検出件数

3 水質検査

行幸啓に係る立入所の飲料水について細菌検査を行った。また、海水浴場水について、管内 4ヶ所の海水浴場で開設前と開設中の年 2 回採水し、水質検査を実施した(表 5)。

表 5 水質検査

区 分		行幸啓	海水浴場水
検 体 数		1	36
検 査 項 目	一般細菌数	1	-
	大腸菌	1	-
	pH	-	36
	COD	-	36
	糞便性大腸菌群数	-	36
	腸管出血性大腸菌 O157	-	8

4 臨床検査

(1) 梯川流域住民健康調査

当所は、検査の一部(心電図検査 3 件)を実施した。

(2) HIV 抗体検査

免疫クロマトグラフィ - 法による HIV 迅速検査を 263 件実施した。